

日米の就職活動:大学生 に対する比較研究

ジョーディン・マートウ

アリーシャ・キンドレックス

キャップストーン2020年春

関根繁子先生

ダスティン・ライト先生

概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- 研究背景
- 研究方法
- 研究結果
- 結論
- 研究の限界点と将来の課題
- 参考文献
- 謝辞

研究の重要性

- 私達が日本に留学した際、日本の就職活動はアメリカの就職活動と大きく異なることに気付いた。そのうちの一つは、日本人の大学生は同じタイミングで就職活動を始めることだ。
- 日本人の友達と話した時、ほとんどの学生が3年で授業をとり終え、就職活動により集中できることがわかった。
- 日本は就職活動のシステムに大学が合わせているように見えた。一方でアメリカでは大学卒業後、自分で就職活動をする傾向がある。
- 日米の学生はどのようなキャリアを望んでいるか、また大学が学生を支援するサービスが国によってどのように異なるかについて知りたい。

研究質問

1. 日米の大学生は男女別にどのようなキャリアを志望するのか。又それはなぜか。
2. 就職活動をする際、日米の大学生はどのようなサポートやサービスを利用するのか。

研究背景

- アメリカと日本の人気のキャリア
- アメリカと日本で人気の専攻
- アメリカと日本の大学でのキャリアサービス
- アメリカと日本の就職活動
- 就職活動への懸念
- アメリカと日本の大学を卒業後の就職率

アメリカの人気キャリア

少なくとも学士号を必要とする人気のキャリア(2017年)

女性

登録看護師	2,092,489
管理アシスタント	2,060,289
小中学校の教師	1,933,074
看護師、精神科、在宅医療	1,071,789

男性

経営者	2,536,832
ソフトウェア開発者	984,505
最高経営責任者	831,158
登録看護師	303,978

(US Department of Labor, 2017)

日本で人気のキャリア

少なくとも学士号を必要とする人気のキャリア(2017年)

女性

男性

事務職員	781,000
エンジニアリング	525,000
農林水産	77,000
経営上	19,000

エンジニアリング	586,000
事務職	514,000
農林水産	140,000
経営上	125,000

アメリカで人気の専攻

大学で人気のある専攻:

女性

ビジネス	175,382
医療・健康専門 職および関連 分野	192,635
心理学	91,161

男性

ビジネス	196,312
工学技術	84,519
社会科学と歴史	81,300

日本で人気の専攻

大学で人気のある専攻:

女性

社会科学	291,977
人文科学	231,822
衛生	197,775

男性

社会科学	541,279
工学	328,749
衛生	126,914

(Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology, 2015-2017)

アメリカの大学でのキャリアサービス

- 大学のキャリアサービスは、1970年代の設立以来、技術の進歩と学生と採用担当者とのつながりを組み込むように変化した。
- 最近、専門的なキャリア開発、雇用、インターンシップの機会、および体験学習をもたらす「カスタマイズされたつながり」が求められている。

カリフォルニア州立大学モンテレーベイ, カリフォルニア州モンテレー郡:

- キャリアアドバイス (直接会う, オンライン)
- 履歴書/カバーレターの書き方のクラス (直接会う)
- 専攻とキャリアのマッチング (直接会う, オンライン)
- キャリアの研究を支援する (直接会う, オンライン)
- 就職フェア (直接会う)

(Dey & Cruzvergara, 2014; Cal State Monterey Bay Career Center, 2020)

日本の大学でのキャリアサービス

- 日本の大学のキャリアサービスは、1900年代初期の米国の職業指導サービスに基づいている。
- 千崎は、日本のキャリア教育は、雇用された学生の数よりもキャリア教育の質に重点を置くべきであると考えている。

(Senzaki, 1993)

岡山大学、岡山県:

- キャリアアドバイス (直接会う、オンライン)
- **キャリア教育コース (直接会う)**
- インターンシッププログラム・学生指導 (直接会う)
- 就職活動指導 (直接会う、オンライン)
- 同窓生ネットワーキング (直接会う、オンライン)

(Senzaki, 1993; Okayama University, 2020)

アメリカの就職活動

- ほとんどの学生が**4年目**に探し始める。
- 20%未満がキャリアサービスを求める。
- 家族や友人などのつながりを利用して、専門的なネットワークを使い、就職活動を行う。
- 企業は現在、将来有望な従業員にトレーニングを提供するための労働力開発プログラムに目を向けている。
- ピューリサーチセンターによると、仕事を探しているアメリカ人の79%は、仕事を見つけるための方法としてオンラインを主に使用している。

日本の就職活動

- 学生は通常、大学**3年生**で就職活動を始める。
- 就職説明会に参加する
- 学生は、各企業特有のエントリーシートを使用して仕事に応募する
- グループインタビュー、試験、筆記試験、個別試験
- 多くの時間とお金を費やなければならない。(例:交通費、衣服)
- 説明会のほとんどは平日。
 - 学生はクラスを欠席する必要があるかもしれない

就職活動への懸念

アメリカ	日本
<ul style="list-style-type: none">● 2018年には、卒業生の29%が自分の仕事と生活のバランスが保てるかの懸念。<ul style="list-style-type: none">○ より柔軟な仕事を求めている。	<ul style="list-style-type: none">● 67%の学生が、自分が与えられた「仕事がやっっていけるか」どうかを不安。
<ul style="list-style-type: none">● 卒業生33%は、充実した仕事が見つからないと心配している。<ul style="list-style-type: none">○ 夢の仕事を見つける。 <p>(Kataria, 2018)</p>	<ul style="list-style-type: none">● 「会社での人間関係、付き合い方」を心配していると答えた学生が64% <p>(Employment Advance Research Center)</p>

大学を卒業後の就職率

アメリカ	日本
2018年	2018-2019年
<ul style="list-style-type: none">● 学士号を取得した人の86%が2018年に就職した<ul style="list-style-type: none">○ 91%男性○ 83%女性	<ul style="list-style-type: none">● 2018-2019に基づく、新卒者の日本の雇用率は78%だった。<ul style="list-style-type: none">○ 2019年に卒業した572640人、446887人はすでに雇用を確保している。○ 430,964名(75.3%)が正社員として採用。● 性別で、97.3%男性と97.8%女性だ。

(National Center for Education Statistics, 2018)

(Kyodo, 2018; New Graduate Employment Rate Rises Again, 2019)

研究方法

- 研究調査
 - 参加者
 - 日本人の大学生:29名(男性:14名、女性:15名)
 - アメリカ人の大学生:30名(男性:13名、女性:17名)
- 調査方法
 - オンラインによるアンケート調査(グーグルフォーム)
 - 英語によるアンケート ○ 日本語によるアンケート

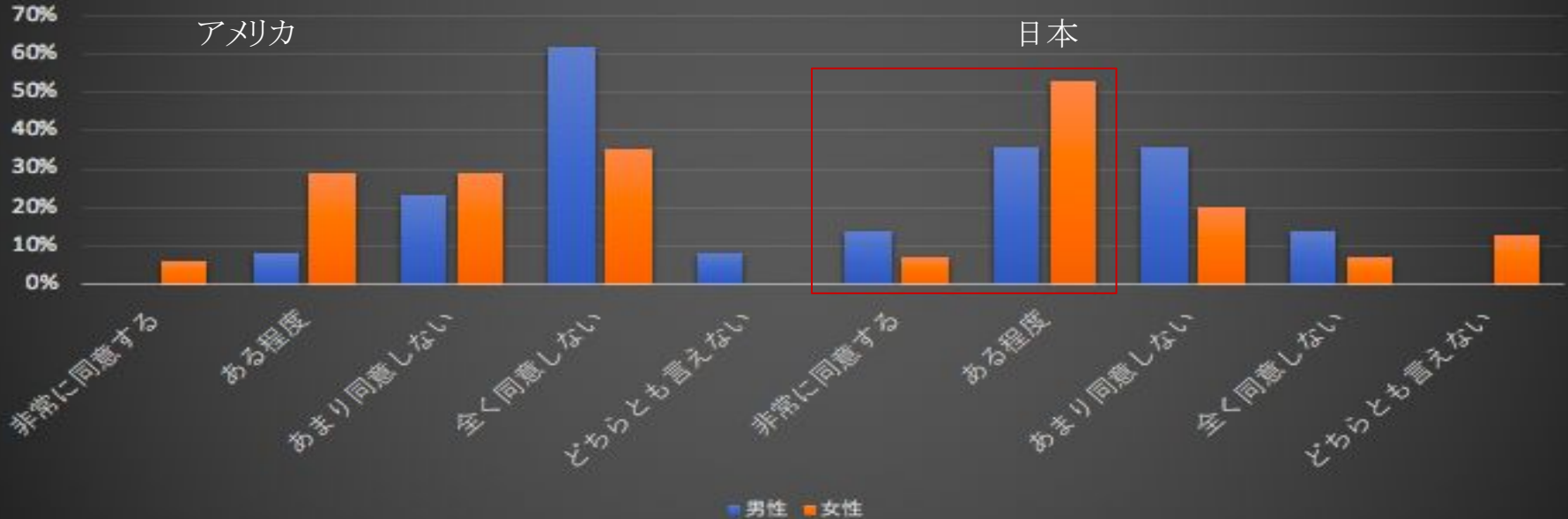
研究結果 1

研究質問1:日米の大学生は男女別にどのようなキャリアを志望するのか。又それはなぜか。

あなたは就職活動中、次の意見にどの程度同意しますか。「私は授業より就職活動を優先します。」

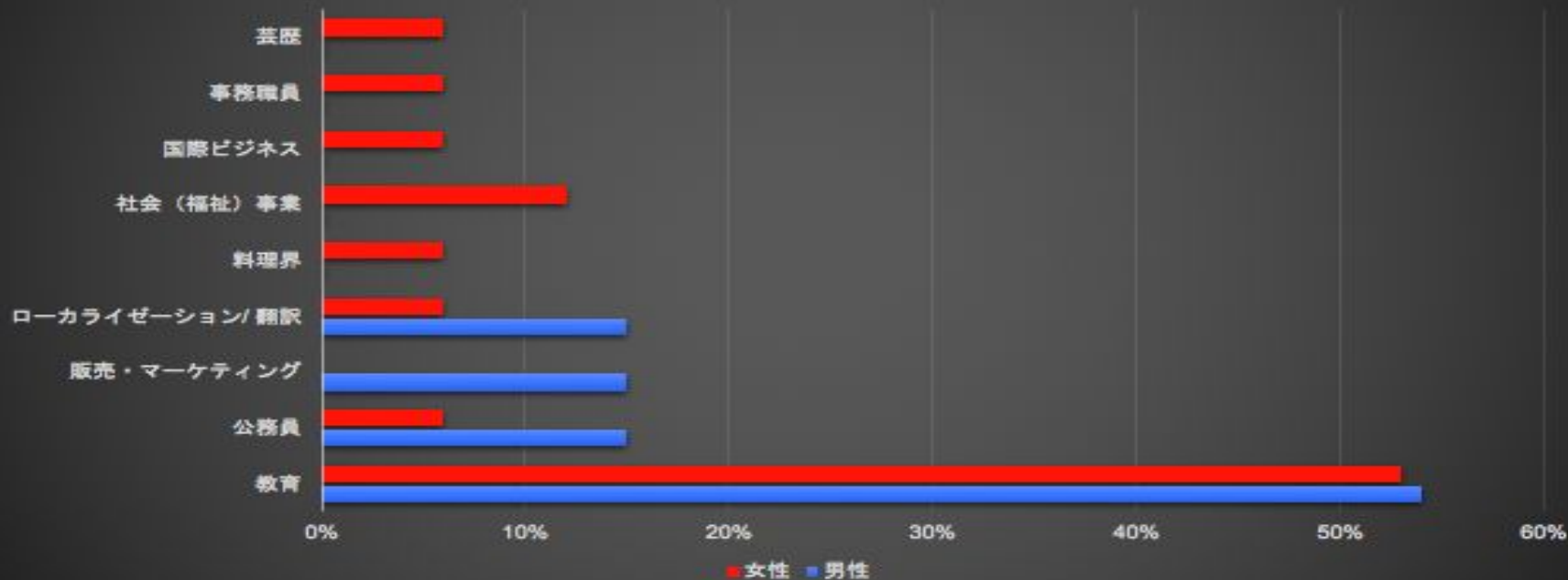
アメリカ

日本



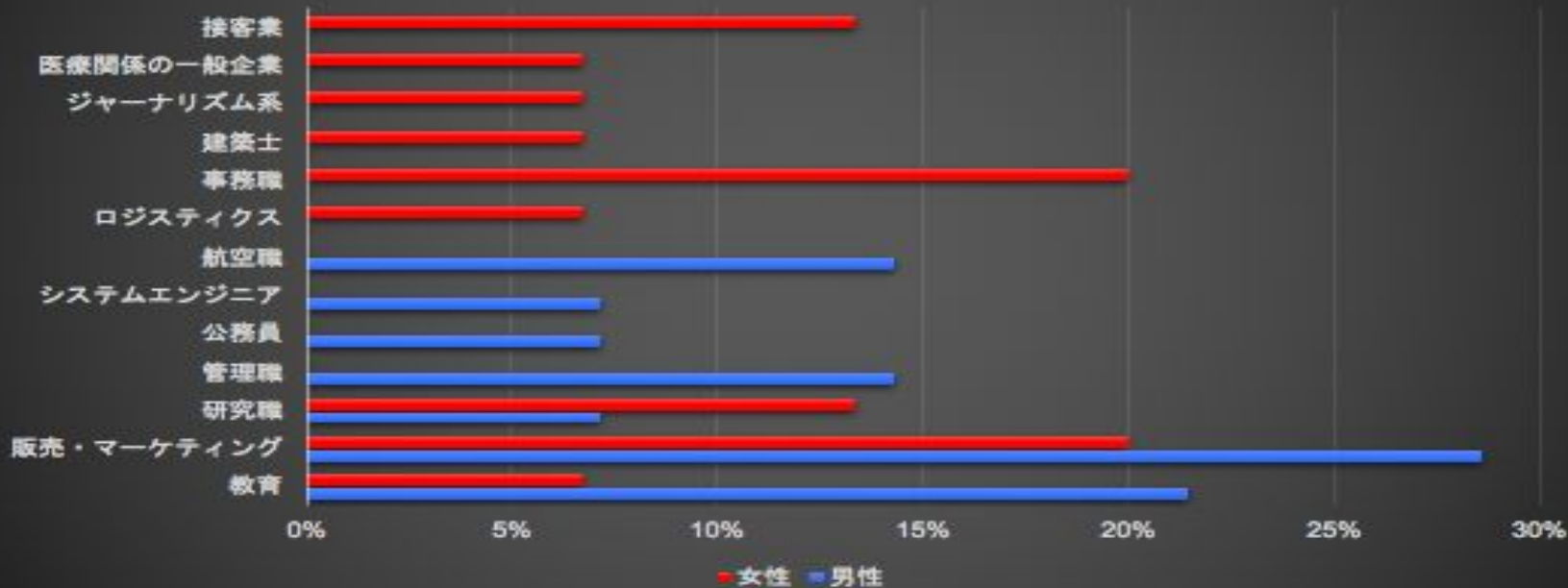
日本の男子学生の50%と女子学生の60%は、クラスよりも就職活動を優先することに同意する傾向があり、アメリカ人の男子8%と女子35%が同意している。

あなたはどのような分野の仕事に就きたいですか。 (アメリカ)



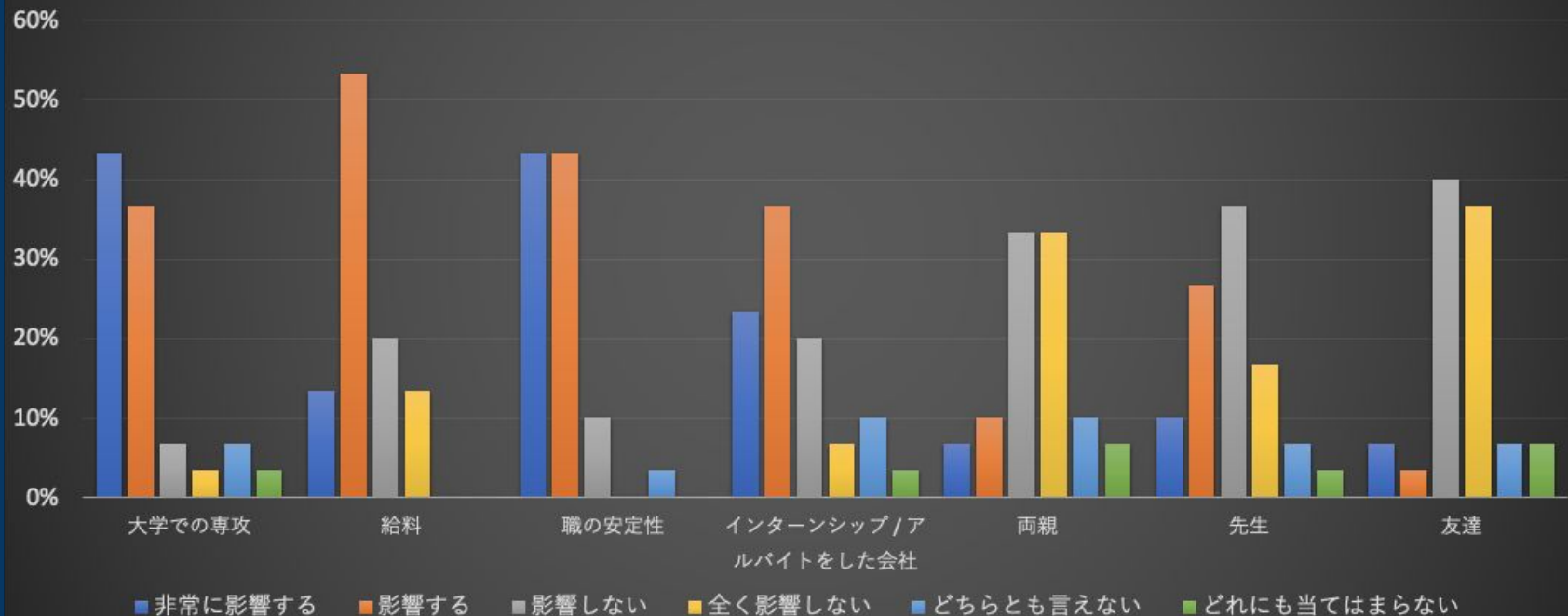
半数以上の女子学生53%と男子学生54%は、様々な分野の仕事の選択肢がある中、教育関係の仕事に就きたいと考えている。

あなたはどのような分野の仕事に就きたいですか。 (日本)



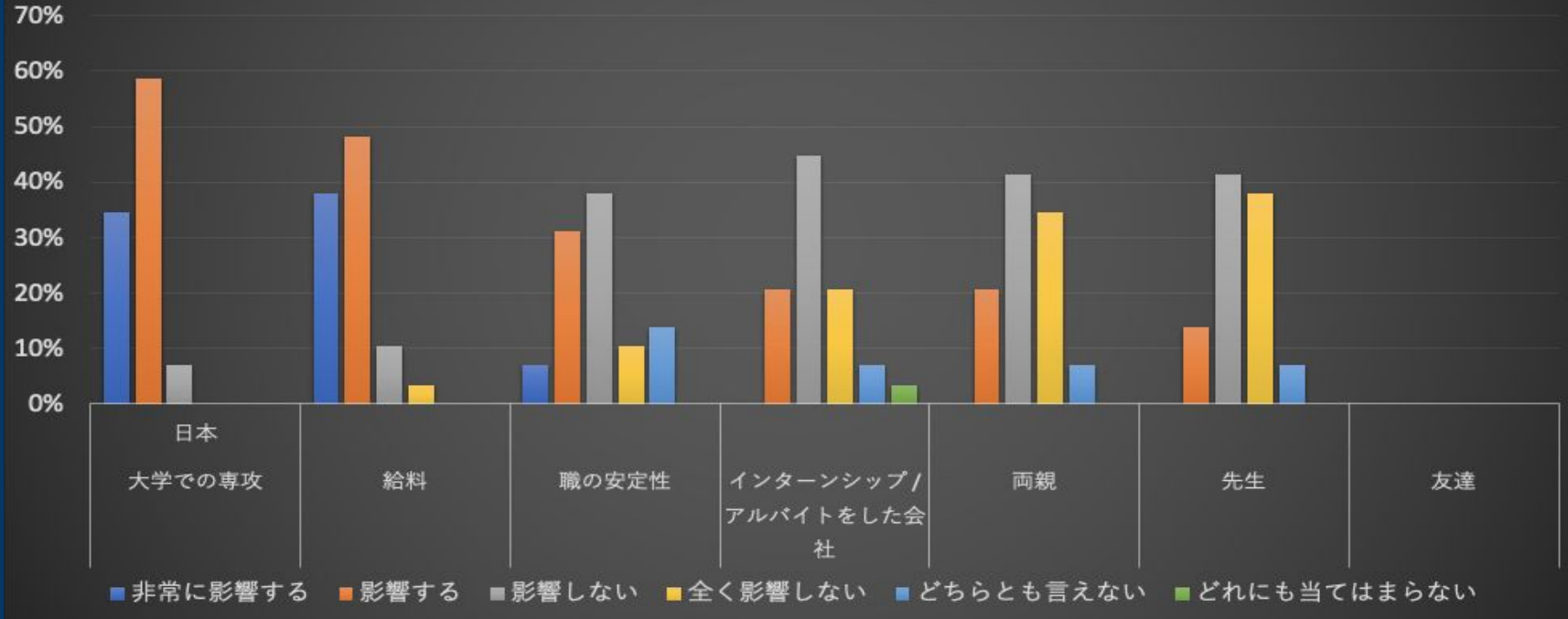
日本の女子学生の上位2つは「**事務職**」と「**販売・マーケティング**」であり、男子学生の上位2つは「**販売・マーケティング**」と「**教育**」である。

就職先を決める場合、どのような要素が影響すると思いますか。（アメリカ）



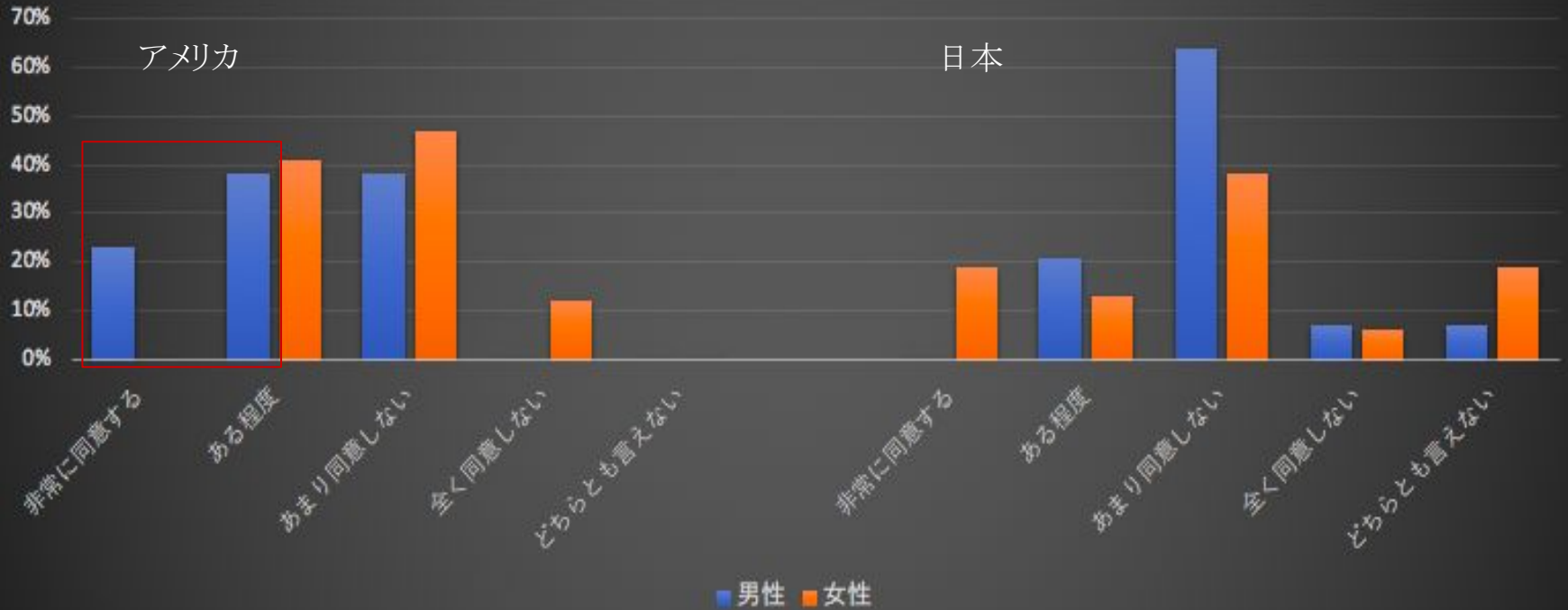
アメリカの学生の場合、「仕事の安定性」「専攻」「給料」は希望の仕事に影響を与えるが、「親」「教師」「友達」はほとんど影響を与えない。

就職先を決める場合、どのような要素が影響すると思いますか。 (日本)



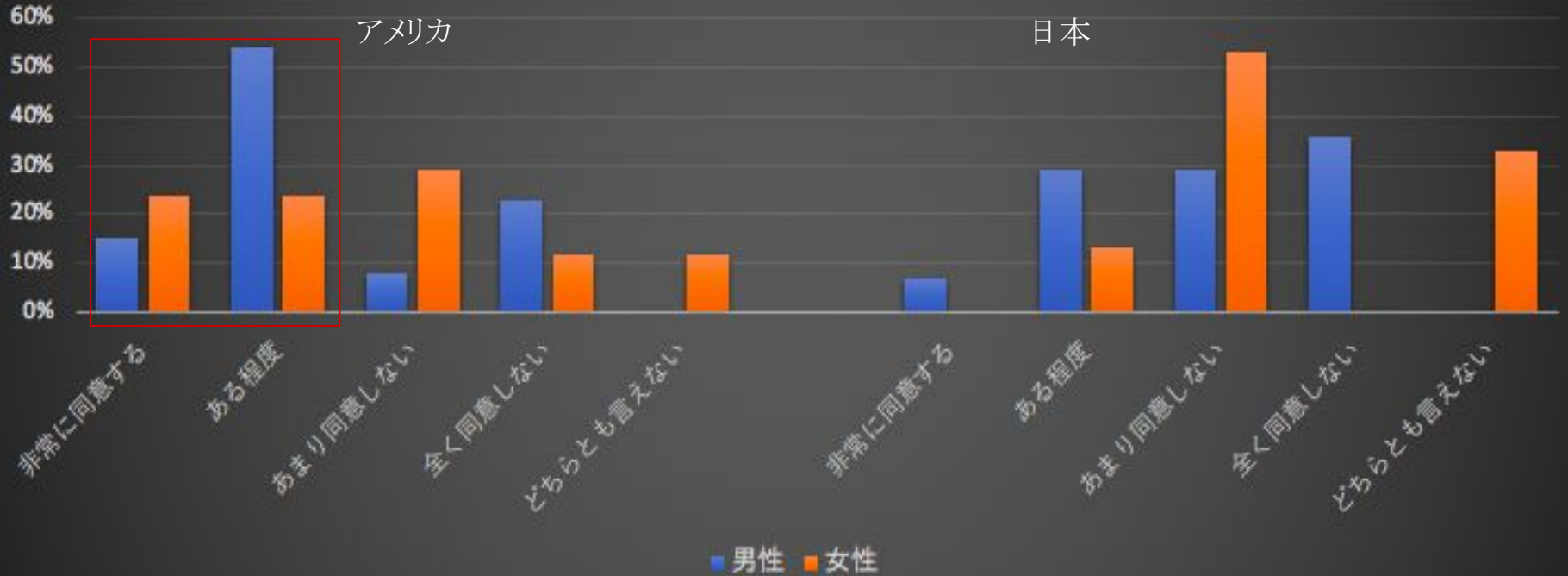
日本人の学生の場合、同様に「給料」「仕事の安定性」「専攻」は希望の仕事に影響するが、「親」「教師」「友達」はほとんど影響を与えない。

「私は卒業後、すぐに希望の就職先に就職できると確信している。」



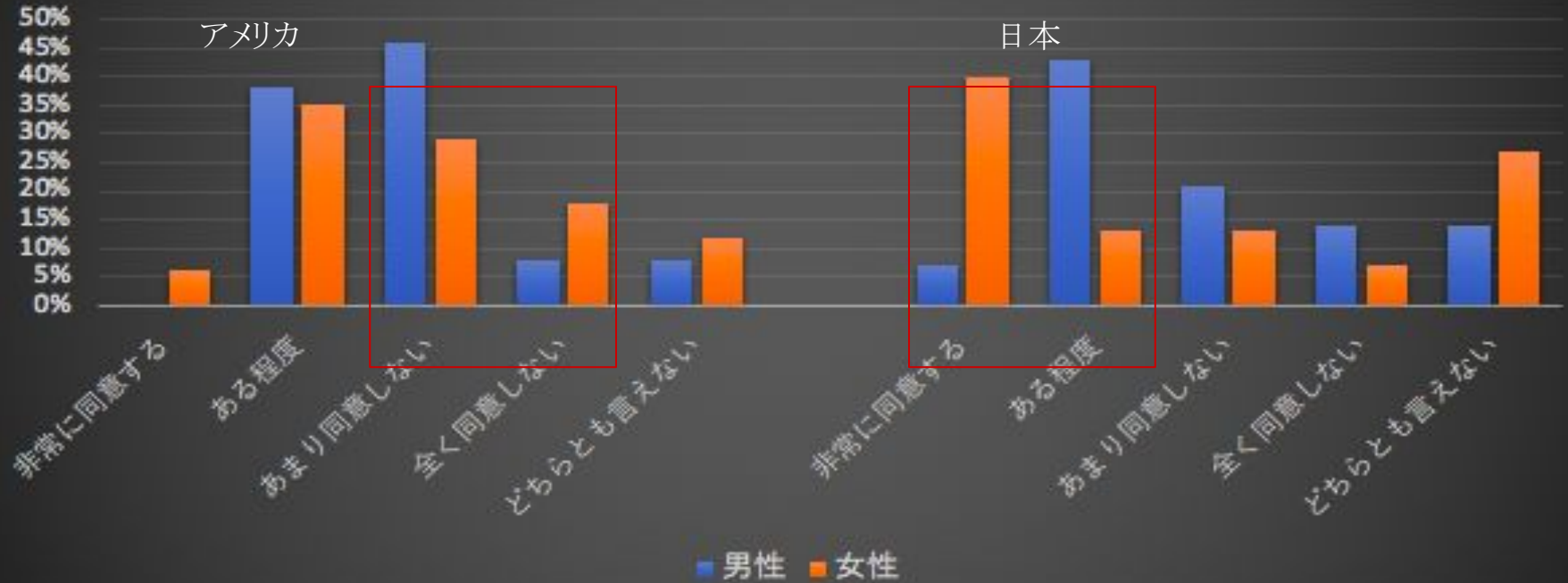
61%のアメリカの男子学生は自信を持っているが、71%以上の日本の男子学生は自信がない。アメリカ人と日本人の女子学生は男子学生に比べて自信がない。

「私の性別は職業を選択する際に影響があると思う」



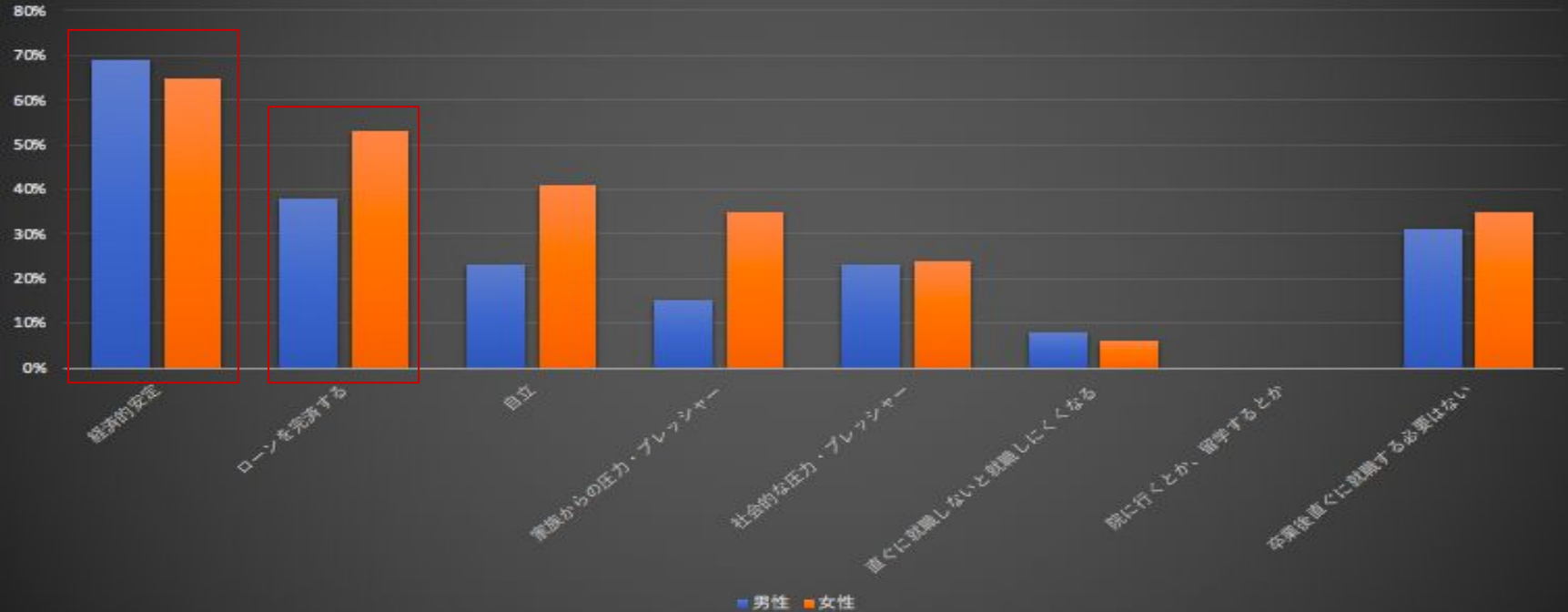
自分の性別が自分に影響を与える可能性があると思っているアメリカ人は57%と過半数であるが、日本人24%にすぎない。

「卒業後、すぐに就職すべきだと思う」



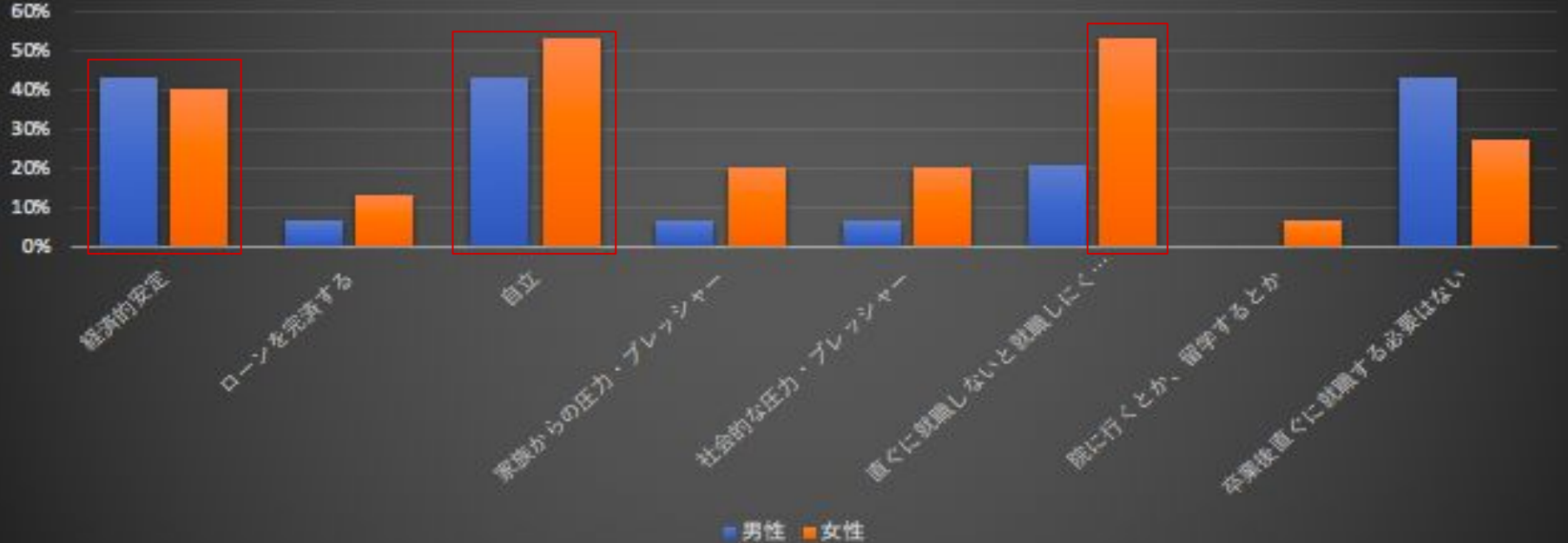
大多数の日本人学生が卒業後すぐ就職すべきだと考えているのに対して、多くのアメリカ人学生はこの意見に反対している。

なぜ卒業後、直ぐに就職するべきだと思いますか。 (アメリカ)



「経済的安定」と「ローンを完済する」は、アメリカ人の学生にとって重要な要素だ。

なぜ卒業後、直ぐに就職するべきだと思いますか。(日本)



日本人の学生は男性も女性も、「**経済的安全**」と「**自立**」が重要だと考えている。**女性**の**53%**は、卒業した後に働く機会を逃してしまう事を心配している。

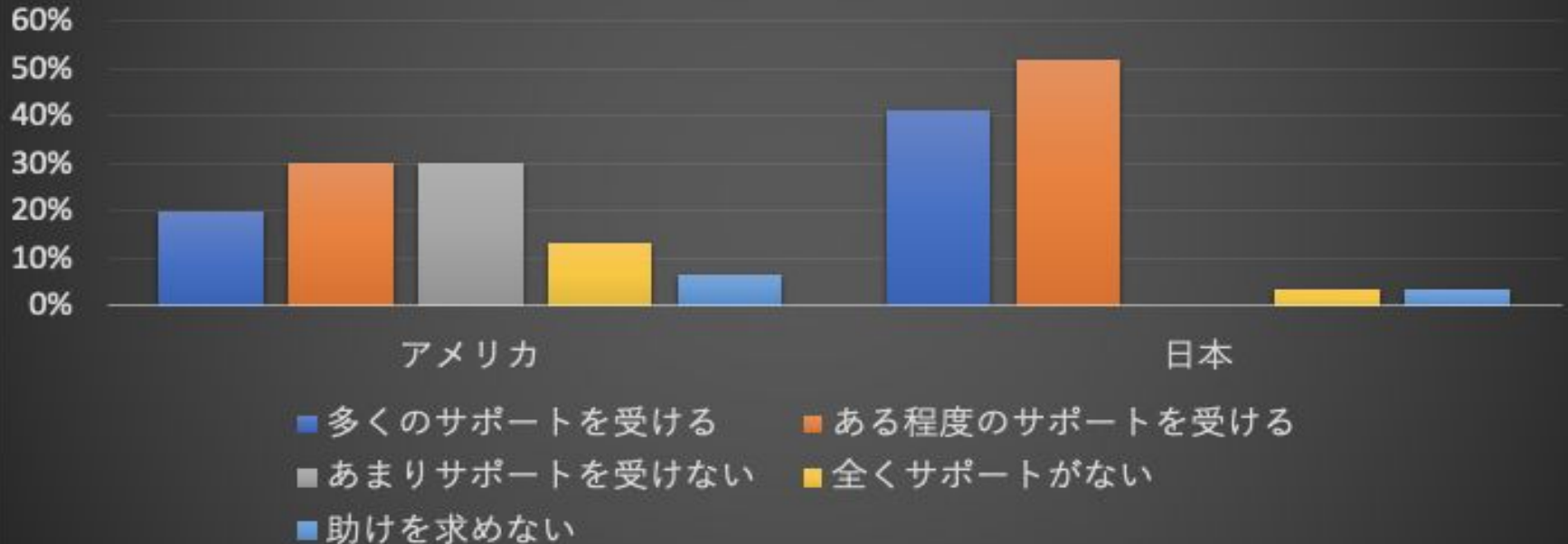
研究結果1のまとめ

- 過半数のアメリカ人の学生は教育関連の職に就きたいと考えたが、日本人の学生に最も人気があった職種はセールス/マーケティングとビジネスだった。
- アメリカと日本の学生が卒業後にキャリアを取得したい主な理由は、仕事の安定と給与だ。
- 日本人の学生は卒業後に就職の機会を逃す事と自立出来るかどうかを心配しているが、アメリカ人の学生は経済的な安定と学生ローンの返済について心配している。
- 日本人はアメリカ人よりも卒業後すぐに就職することが重要だと考えており、大学3、4年生は就職活動を授業よりも優先している。

研究結果 2

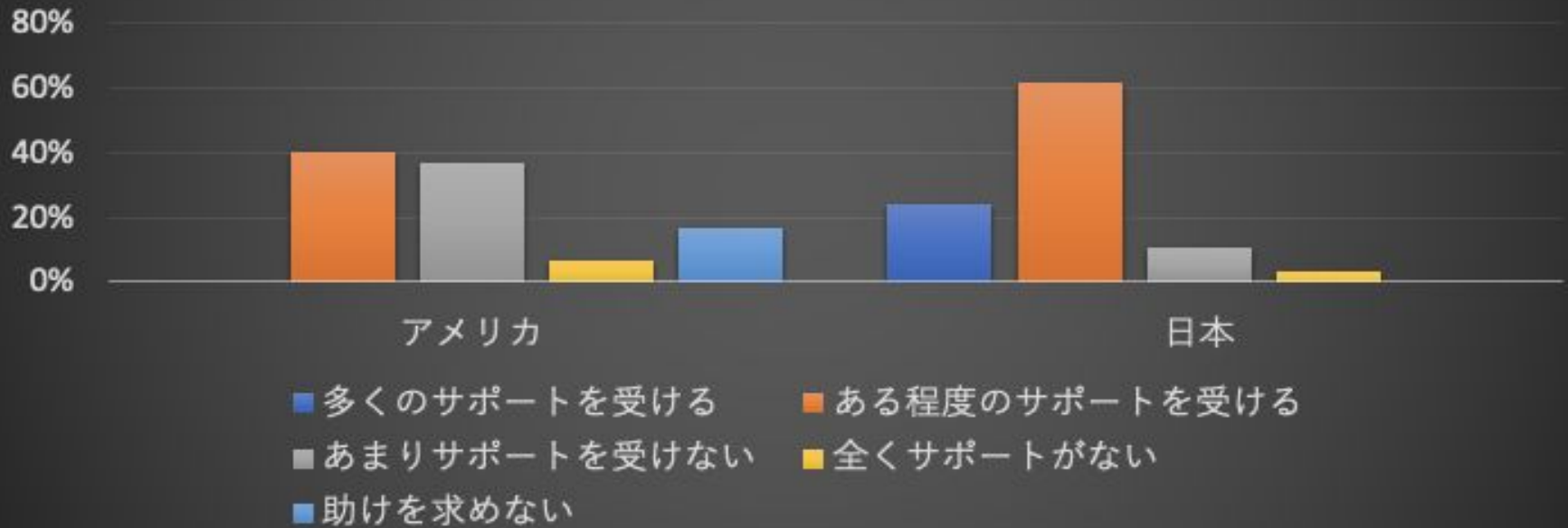
研究質問2:就職活動をする際、日米の大学生はどのようなサポートやサービスを利用するのか。

就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けると思いますか。 [家族]



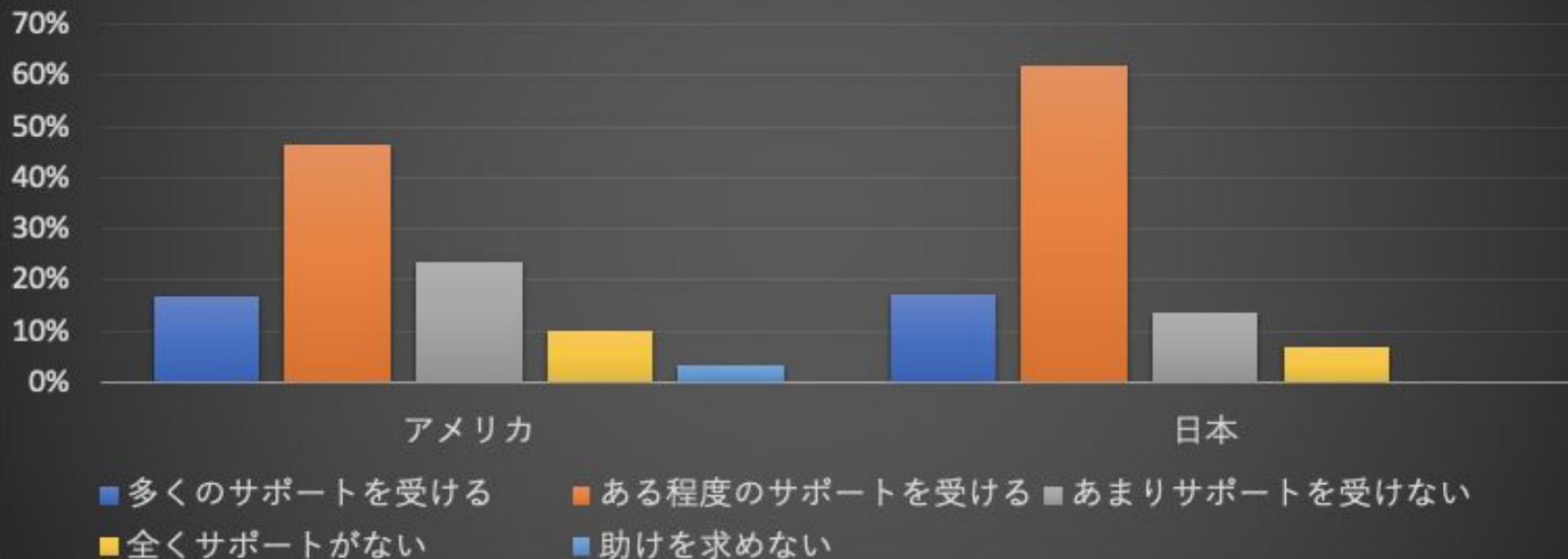
93%の日本人と50%のアメリカ人の学生は、家族から**多くの**又は**ある程度**のサポートを受けると答えたが、42%のアメリカの学生は**あまり**又は**全く**サポートがないと答えた。

就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けると思いますか。 [キャリアセンター]



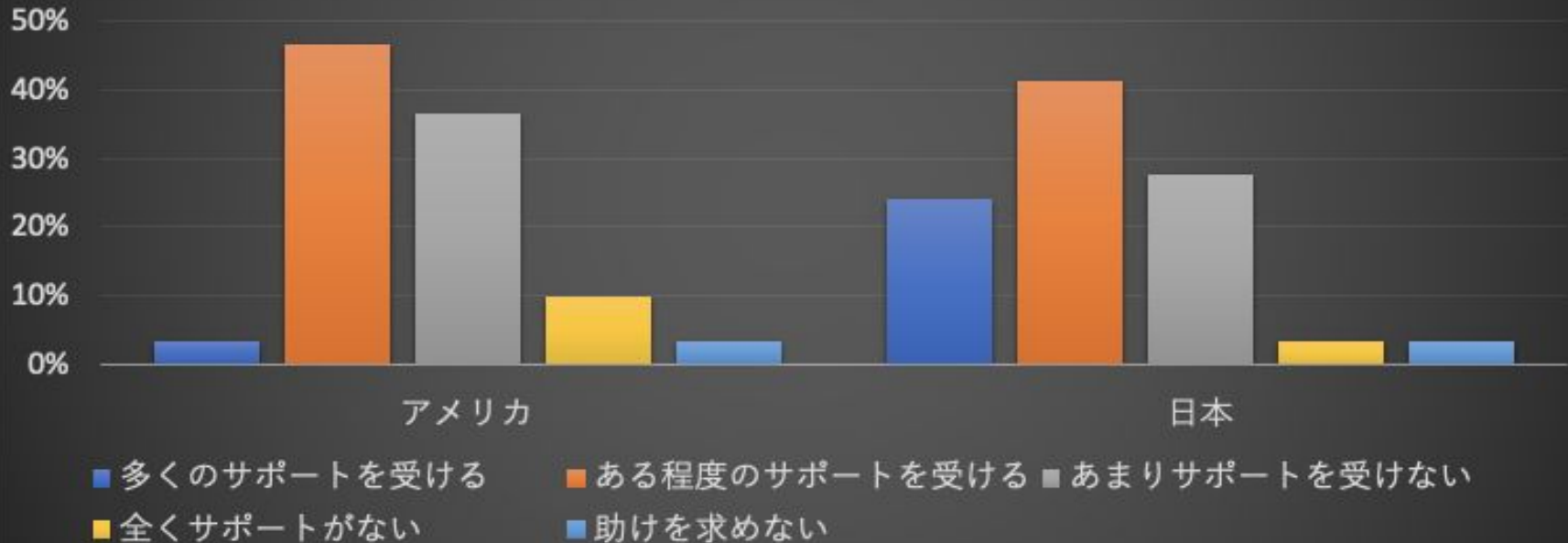
83%の日本人の大学生と40%のアメリカ人の大学生は**多くのサポートとある程度**のサポートを受けると答えた。それに対して**37%のアメリカ人の大学生はあまりサポートを受けないと答えた。**

就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けるとお考えですか。 [大学の先生・教授]



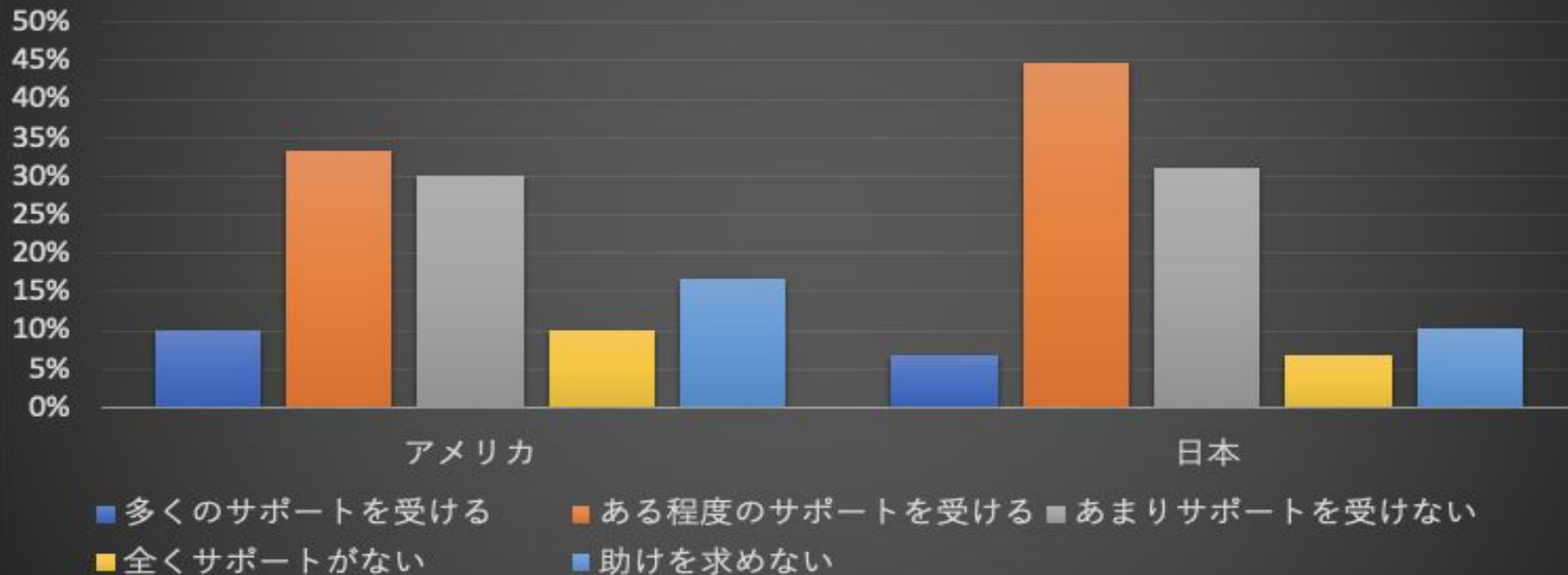
79%の日本人の大学生と64%のアメリカ人の大学生は大学の先生からある程度のサポート又は多くのサポートを受けると答えた。

就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けると思いますか。 [先輩]



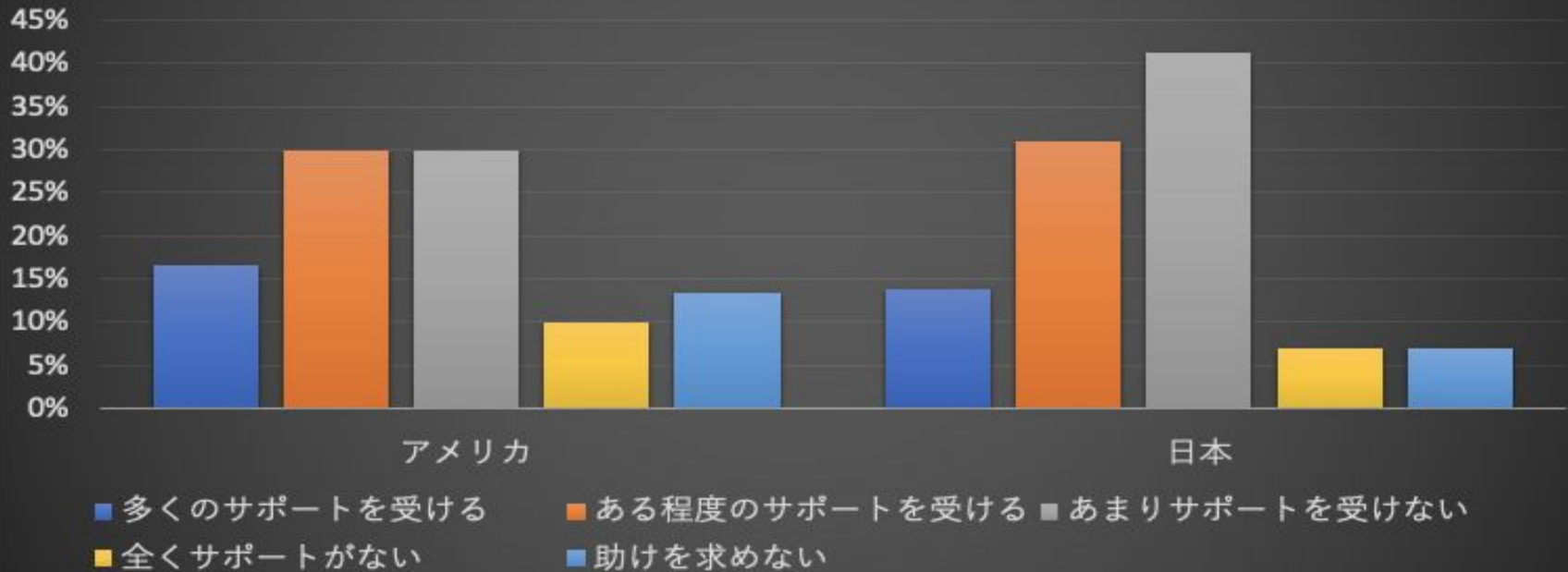
65%の日本人と50%のアメリカ人は先輩の支援を「多く」又は「ある程度」受けると答え、37%のアメリカ人と28%の日本人はあまりサポートを受けないと答えた。

就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けると思いますか。 [友達]



52%の日本人の大学生と43%のアメリカ人の大学生はある程度又は多くのサポートを友達から受ける

就職活動をするにあたり、以下の人々からどのくらいサポートを受けると思いますか。 [人材募集代行会社]



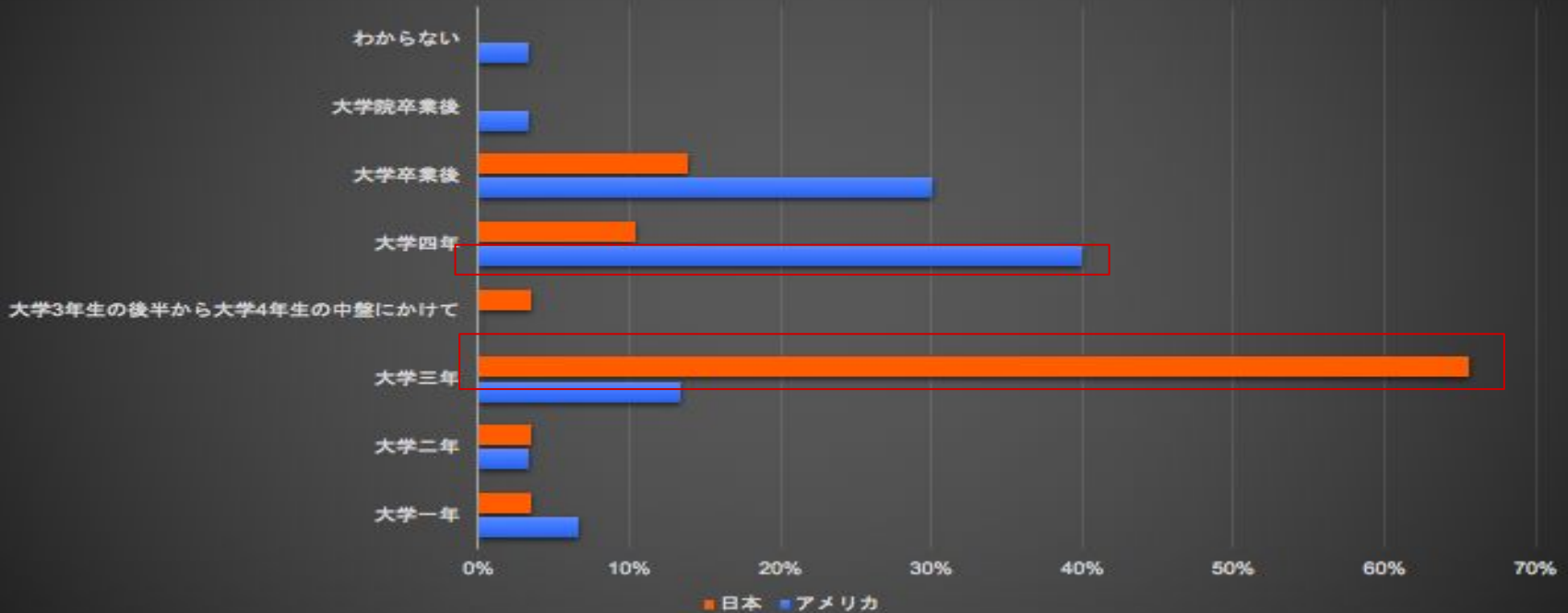
48%の日本人の大学生は人材募集代行会社からあまり又は全くサポートを受けないと答え、30%のアメリカ人の大学生はあまりサポートを受けない又はある程度受けると答えた。

あなたの大学は就職活動のためにどのようなサービスを提供していますか。



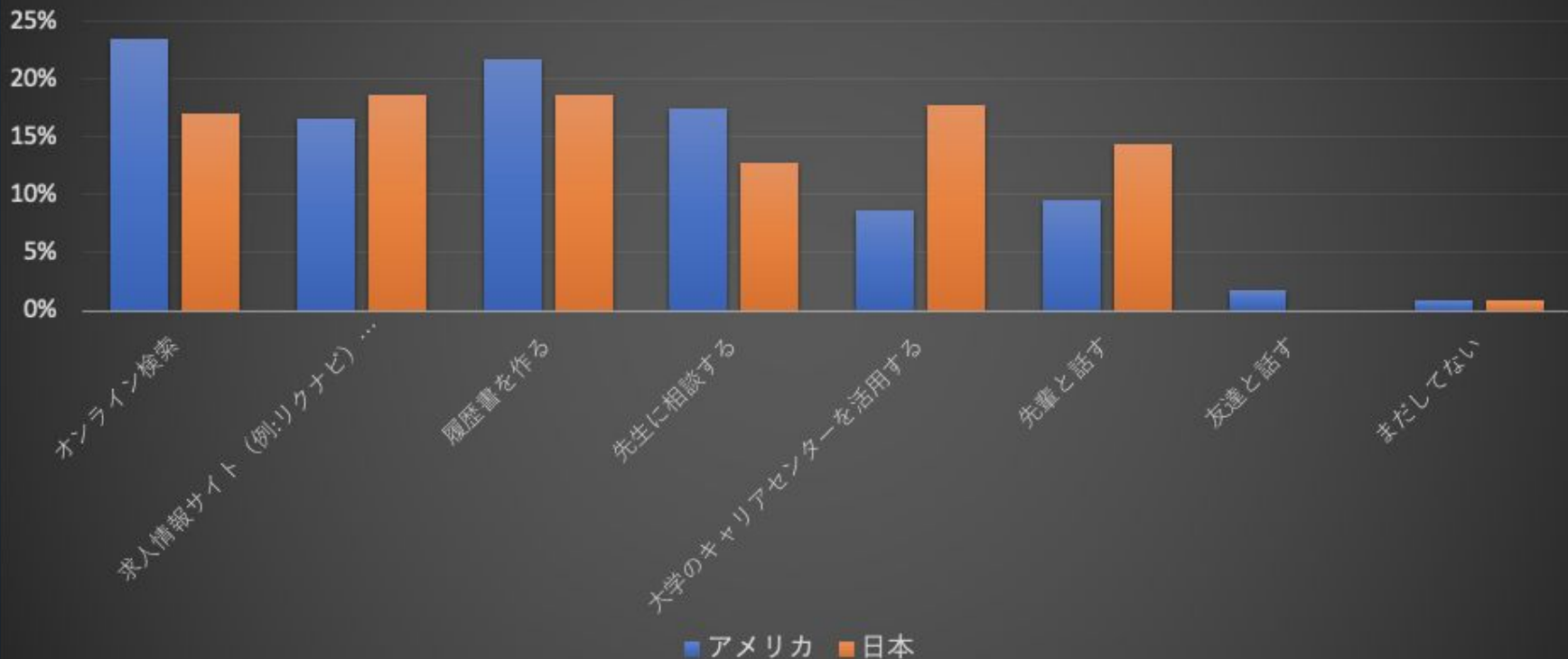
アメリカの大学も日本の大学も就職説明会、アドバイザーによる支援、履歴書の書き方の授業など、同様のサービスを提供しているようだ。

いつ頃から就職活動を始めればよいと思いますか。



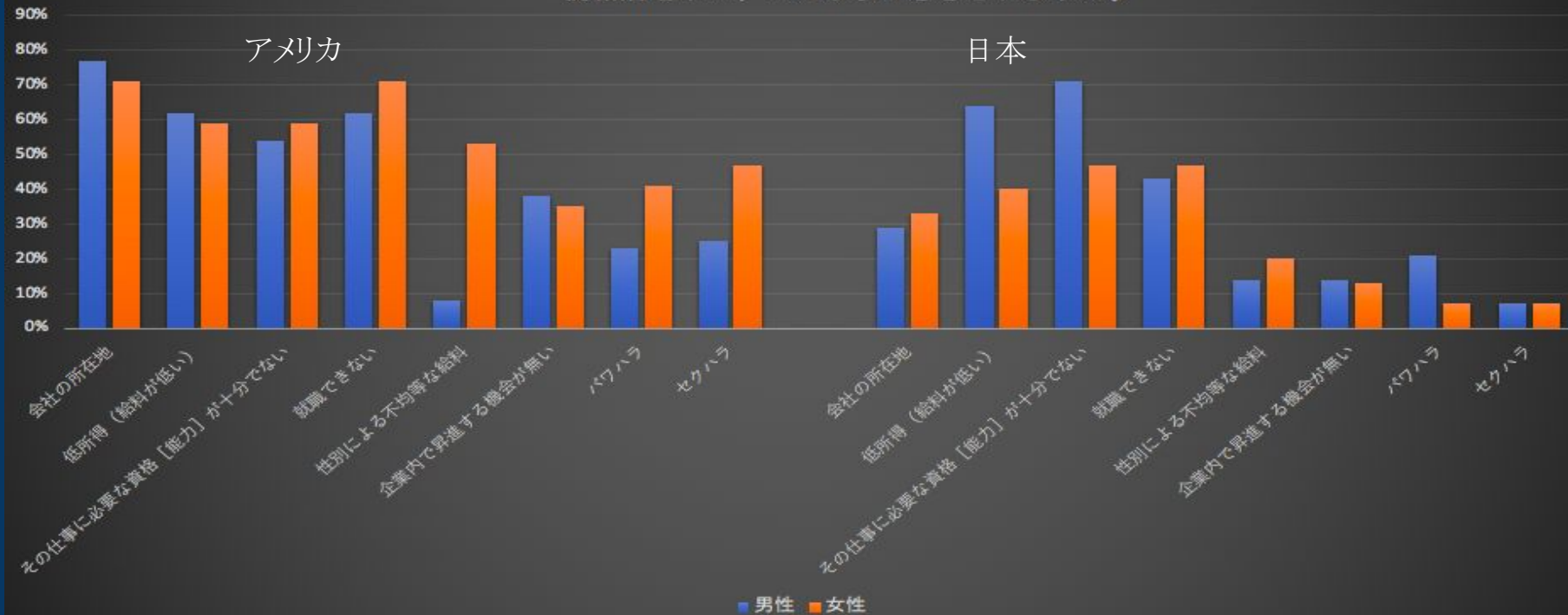
多くのアメリカ人の学生は就職活動を4年生又は大学卒業後に始めるべきだと考えているのに対し、ほとんどの日本人の学生は大学三年で始めるべきだと考えている。

就職活動のためにどのようなことをしますか。



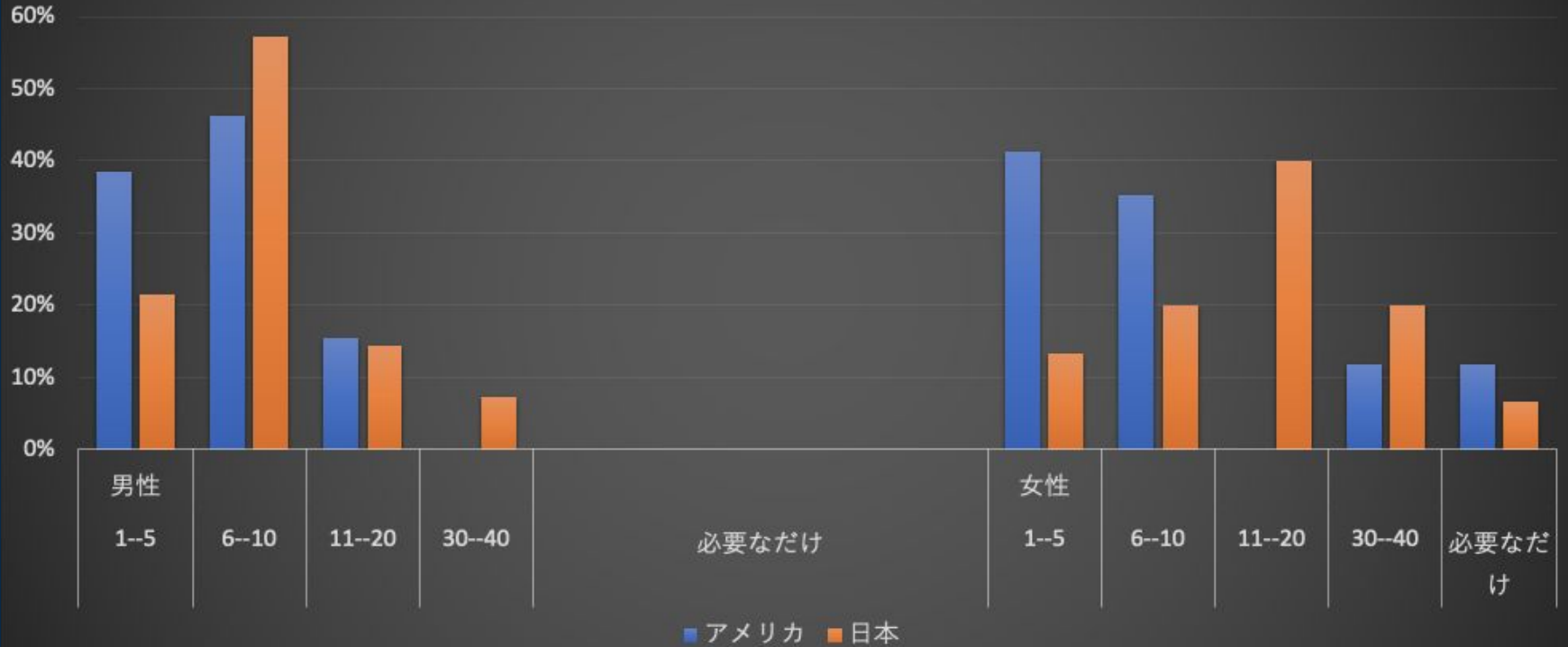
ほとんどの日本人とアメリカ人の大学生共に、友達と話すこと以外、就職活動のために、提示した全ての活動を行っている。

就職活動中に、どんな事が懸念されますか。



「低所得」と「その仕事に必要な資格【能力】が十分でない」と「就職できない」はアメリカ人と日本人の大学生に共通の不安。70%以上のアメリカ人の学生は「会社の所在地」を選び「パワハラ・セクハラ」を選んだ女性も多かった。

あなたは何社にエントリーすると思いますか。



ほとんどのアメリカ人と日本人の男性の学生が応募するのは10社以下だが、日本の女性の67%は11社から40社に応募すると答えている。

研究結果2のまとめ

- ほとんどの日本人の学生はアメリカ人学生よりも大学のキャリアサービスを利用している。
- 日本の学生は3年生で就職活動を始めると強く感じているが、アメリカ人は4年生や卒業後が適切だと答えている。
- アメリカ人と日本人の学生は、「低所得」「能力不足」「就職できない」ことを心配している。
 - アメリカ人の女子学生は、企業でのジェンダーによる不平等な扱いについてより心配する傾向がある。
- 過半数の日本人女性は、11社から40社の仕事に応募すると答えたのは卒業後に就職できないと言う大きな懸念を示している。

結論

- 日米の就職活動のシステムの違いにより、日本人の大学生はアメリカ人の大学生よりも著しく早く就職活動を始める。
 - **日本**では就職活動がより重視され、**就職先を在学中に確保**している。
- 日米の学生共に就きたい職種は、経済的な自立と大学で学んだ知識に関連している。
- **アメリカ人**が就職活動の過程で抱えていた大きな懸念が個人の経済的な自立だったのは、**ワークライフバランス**を大切とするアメリカ人のライフスタイルに関連している一方で、**日本人の学生**の懸念は仕事に必要な能力が不十分であることや仕事上の人間関係である事がわかり、企業の一員として自分が会社にどれだけ貢献できるかが重要になっているようだ。
- 日本とアメリカには同様の就職に関する大学のサービスがあるが、使用する頻度と方法に違いがある事がわかった。

研究の限界点 / 将来の課題

- 研究の限界点
 - アメリカ人の学生の性別不均衡
 - 十分なデータ収集のために、国ごとに30人以上の回答者が必要だった。
 - アメリカの就職活動の知識を見つけるのは難しい
- 将来の課題
 - 回答者数を増やす必要がある
 - 仕事をしている人を調査して比較する必要がある
 - ジェンダーの問題やその他の社会問題をさらに調べる必要がある

参考文献

- Career Development*. (n.d.). Cal State Monterey Bay. Retrieved March 24, 2020, from <https://csumb.edu/career>
- Dey, F., & Cruzvergara, C. Y. (2014). Evolution of Career Services in Higher Education. *New Directions for Student Services*, 2014(148), 5–18. <https://doi.org/10.1002/ss.20105>
- Dept of Labor, Women’s Bureau, Data and Stats—Employment and Earnings by Occupation-Text Version. (n.d.). Retrieved November 6, 2019, from https://www.dol.gov/wb/occupations_interactive_txt.htm
- Employment Advance Research Center.(2018, June 19). 2018 Graduate University Student Job Hunting Survey Results Report.
- Fadulu, L. (2018, January 20). Why Are College Students Shunning Career Services? Retrieved November 20, 2019, from The Atlantic <https://www.theatlantic.com/education/archive/2018/01/why-arent-college-students-using-career-services/551051/>

参考文献

GAUCHAT, G., KELLY, M., & WALLACE, M. (2012). OCCUPATIONAL GENDER SEGREGATION, GLOBALIZATION, AND GENDER EARNINGS INEQUALITY IN U.S. METROPOLITAN AREAS. *Gender and Society*, 26(5),718–747. Retrieved from JSTOR.

In Bleak Economy, Japanese Students Grow Frustrated With Endless Job Hunt. (2010). *Chronicle of Higher Education*, 56(22), A32–A32.

Ishikawa, Y., Mizuno, M., & Amundson, N. E. (2009, June). Career awareness of new graduates and recruiting activities by companies in Japan. *Journal of Employment Counseling*, 46(2), 62+. Retrieved from https://link-gale-com.library2.csumb.edu:2248/apps/doc/A200844486/AONE?u=csumb_main&sid=AONE&xid=63cdfd82

参考文献

Kataria, A., & Perring, L. (2018, April 17). graduate-jobs.com. Retrieved From https://www.graduate-jobs.com/news/13628/What_are_graduates_biggest_concerns_once_finishing_university

Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology (2015-2017). *Post-School Status of Graduates*. Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology. <http://www.stat.go.jp/english/data/nenkan/68nenkan/1431-25.html>

Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology (2015-2017). *Universities*. Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology. <http://www.stat.go.jp/english/data/nenkan/68nenkan/1431-25.html>

参考文献

- Molin, Karin. (Spring 2015). Gender discrimination in Japanese job hunting: Listening to the voices of future workers. Stockholm University, Sweden.
- New Graduate Employment Rate Rises Again. (2019, September 12). Retrieved December 18, 2019, from <https://www.nippon.com/en/japan-data/h00536/new-graduate-employment-rate-rises-again.html>.
- Ono, Y. (2000, April 13). Job Hunting in Japan Means Battling Web Traps—Students Get Smart as Firms Try To Weed Out Applicants; Outfoxing Sapporo's 'Drama'. *Wall Street Journal, Eastern Edition; New York, N.Y.*, p. B1.

参考文献

Record 98% of Japan's university graduates land jobs amid recovering economy. (2018, May 18). *Thejapantimes*. Retrieved from <https://www.japantimes.co.jp/news/2018/05/18/business/economy-business/record-98-japans-university-graduates-land-jobs-mid-recovering-economy/#.XpImB1NKiqA>

Senzaki, T. (1993). Career Education in Japan: Its Current Status and Condition. *The Career Development Quarterly*, 41(4), 291–296. <https://doi.org/10.1002/j.2161-0045.1993.tb00402.x>

"Shūkatsu": How Japanese Students Hunt for Jobs. (2019, March 6). Retrieved from <https://www.nippon.com/en/column/g00365/shukatsu-how-japanese-students-hunt-for-jobs.html>.

Smith, A. (2019, December 31). Job seekers find internet essential for employment search. Retrieved from <https://www.pewresearch.org/internet/2015/11/19/1-the-internet-and-job-seeking/>

参考文献

- The Condition of Education—Population Characteristics and Economic Outcomes—Economic Outcomes—Employment and Unemployment Rates by Educational Attainment—Indicator May (2019). (n.d.). Retrieved October 29, 2019, from https://nces.ed.gov/programs/coe/indicator_cbc.asp
- The NCES Fast Facts Tool provides quick answers to many education questions (National Center for Education Statistics). (n.d.). Retrieved October 23, 2019, from <https://nces.ed.gov/fastfacts/display.asp?id=561>
- Watanabe, K. (1994). Japanese Women's Studies. *Women's Studies Quarterly*, 22(3/4), 73–88. Retrieved from JSTOR.
- Yano, M. (1997). Higher Education and Employment. *Higher Education*, 34(2), 199–214. Retrieved from JSTOR.

参考文献

裕一 古市. (2017, September 22). 大学生の大学進学動機と価値意識.
Retrieved from
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/career/14/0/14_KJ0000571848
/_article/-char/en#citedby-wrap](https://www.jstage.jst.go.jp/article/career/14/0/14_KJ0000571848/_article/-char/en#citedby-wrap).

謝辞

- 関根繁子先生
- ダスティン・ライト先生
- 齋藤-アボット佳子先生
- 小垣朋子先生
- ガス・レナードさん
- キャップストーンのクラスメイト
- 参加者
- 日本の留学生